



泗水小だより



泗水小学校
学校だより No9
文責 芹川博文
6月16日(金)

学校教育目標「自ら考え なかまと高め合う 泗水小」

異学年での学び合い

～ 縦割り班活動が始まります ～

私は菊鹿町（山鹿市）で育ちました。のんびりとした自然豊かな町で、当時は信号機もありませんでした。

そんな中で、小学生の頃は1～6年生が一緒にあって毎日遊び、その中で、たくさんのことを教えてもらいました。夏の季節で思い出されることは、まずクワガタの採り方、どうやって木を蹴るか、落ちた音の見分け方、スズメバチが向かってきた時の身の避け方（私たちのところでは、なぜか口笛を吹いていました）などです。他にも魚の捕まえ方（岩場に手を突っ込んで素手で捕まえていました）、取った魚の塩焼きの仕方、内田川で泳ぐときは岩場からの飛び込み方など……。2歳上の兄もいましたが、兄から教えてもらった記憶よりも、兄の友達や、その上の上級生から教わった記憶が多く残っています。

さて、泗水小学校では縦割り班活動で無言掃除等を始めます。昨年度も取り組んでおり、1年間を通して異学年でどんな学び合いができるのか、どんなつながりができるのか、楽しい思い出ができるのか楽しみです。掃除自体は遊びではありません。しかし、上級生と下級生が協力して掃除をするとき、そこには「真剣さ」や「助け合い」、そして「やりがい」と「本当の楽しさ」が味わえるものと期待します。

泗水小学校に限らず泗水地域全体において、異学年の仲が良く、繋がりが強いと感じます。縦割り班の活動を通して、「私も来年は（将来は）、〇〇さんみたいになりたい」と、一つ上の学年が「あこがれ」の存在となるよう願っています。

私自身は泗水小全体が、家族のような（アットホームな）雰囲気になることを思い描いています。



泳げることは、命を守ること

～ 水泳の授業を前に ～

こちら私事ですが、一度溺れかかったことがあります。しかも大人になってから。海水浴場で子どもを背中に乗せて泳いでいたら、次々に他の子どももしがみついてきて、一気に苦しくなりました。その時、分かったことは、必死でもがいている私に「他の人は気づかない」ということでした。だんだん音が聞こえなくなり楽しそうに遊んでいる人の姿が遠めに見えました。その後、何とか足の着くところまでたどり着き助かりましたが、溺れる時の恐怖を実感しました。

さて、体育で水泳の授業が始まります。タイムを競う選手にはならないまでも、自分の身を守る泳力はつけてほしいと願います。

甚大な自然災害が発生する時代です。浮く力や向こう岸までたどり着ける泳力が必要になるかもしれません。まさに泳げることは自分の命を守ることに繋がります。

ちなみに、泳ぎが得意な人でも溺れることがあります。腰ほどの浅い水でも溺れることがあるそうです。原因は「パニック」になること。何事も「自分は大丈夫」との過信が、一番危険なのかもしれません。



【ひとこと情報】

- 職員研修で消防署の方に来ていただき救命救急法を学びました。隊員の方の、「心臓が停止した場合、1分経つごとに10%ずつ生存率が低くなります」の言葉が強く残りました。ためらわず胸骨圧迫（心臓マッサージ）をしてください。
- 学校で飛び込みを教えなくなって（禁止になって）10年以上になります。かつて「当たり前」だったプールの飛び込み台（コース台）もありません。
- 水泳の授業は、夏休み前に終了します。夏休み期間中の学校プールの開放もありませんのでご承知おき願います。